



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1942, 22(251): 169-172

ISSUE DATE:

1942-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168366>

RIGHT:

観測部月報

Monthly Report, Observing Section, O. A. A.

★

東亞天文協會

★黄道光 ZODIACAL LIGHTS. 課長 山本一清 (I. Yamamoto, President)

鹿兒島の坂上務氏から昨秋十一月19日曉天の黄道光を、又、横濱の醍醐氏から去二月7日の對日照の観測を報告せられた。

最近黄道光の星圖を要求せられる會員が多くなつて來た。星圖は未だ澤山用意してありますから、観測希望の方々は遠慮なく御請求下さい。最初の星圖は實費を頂く。其の後、観測を報告された分は無料で、新品を返します。

皇軍の威力で、南方に我が國力の勢力範圍が擴まつた。此等の土地は、常に秋と言はず、又、冬と言はず、實に1年中、黄道光のよく見える所である。この方面に進出される方々は、黄道光を熱心に見て頂きたい。(1942-3-1)

★流星課たより METEORS (125) 課長 小横孝二郎 (K. Komaki, President)

五月中に活動する流星群は次の通りである。

期 間	最 盛 日	輻 射 點		附 近 の 星	性 状
		α	δ		
五月 1日—15日	4日 \pm 2日	335°	- 2°	水瓶 η	速, 痕
下 旬		246	+29	冠	速, 白

水瓶座 η 流星群はハリ彗星に關聯するもので、輻射點は、期間中、東方へ移動する。北半球の中緯度では、夜明前1時間餘りしか観測出來ない、本年は、1日に満月が起るので、観測には不都合である。

×

×

×

昨年六月以降流星課のメンバとして登録せるものを下に掲載する。計18名で、分布上、東京を中心とした關東方面と、大阪京都を中心とした關西方面は多いが、他地方に少いのは遺憾である。

課 員	略 符	観 測 地	經度(東經)	緯度(北緯)
山 本 一 清	Ym	滋賀縣栗太縣上田上村	135° 59'	34° 58'
江 川 義	Eg	千葉縣東葛飾郡柏町篠籠田	139 58	35 52
木 村 直 樹	Kc	和歌山縣伊都郡九度山町九度山	135 34	34 18
富 田 弘 一 郎	Tm	東京市世田谷區玉川用賀町	139 38	35 37

川 入 武 正	Kw	香川縣三豐郡筈田村141	133	43	34	9
前 橋 榮 太 郎	E. M.	大阪市住吉區山阪町二丁目81	135	30	34	40
石 橋 正	T. I.	東京市葛飾區本田中原町132の1	139	50	35	44
日 比 宏	H. H.	横濱市中區本牧町	139	40	35	26
舟 楓 宗 一 郎	S. H.	京都市左京區岡崎徳成町26	135	45	35	1
樋 口 操	Hi	大阪市北區西扇町17	135	30	34	42
栗 原 正 雄	M. K.	東京市王子區岩淵町1の526	139	44	35	46
古 屋 四 郎	Fy	甲府市百石町330	138	33	35	40
瀧 田 正 俊	M.Tk.	千葉縣銚子市西芝町1丁目565	140	49	35	43
金 田 伊 三 吉	Kd	石川縣珠洲郡寶立町鶴岡	137	45	37	48
金 谷 豊	Y. K.	大阪市北區都島本通一丁目65	135	30	34	42
河 原 崎 俊 男	Qw	京都府久世郡淀町大下津	135	44	34	54
三 宅 彰	Ma	東京市中野區沼袋町509	139	39	35	42
田 中 雅 男	M.Tn.	神奈川縣鎌倉市林木座59	139	33	35	19

×

×

×

課員江川義君は去二月14日死去された。同君は大正12年生、本年20歳の若盛りであつて、まさに春秋に富む身であつた。誠に痛惜の念に堪えない。一昨年来流星の觀測に精進され、特に關東方面のリーダーとして活躍されてゐた。本課は同君の功績に感謝するとともに、恭しく哀悼の意を表はす次第である。

(1942-3-15)

★太陽課 SUN

幹事 大石辰次 (T. Oisi, Secretary)

觀測者 本月報告者18名の中、遊星面課長伊達英太郎氏が1938年十月より休測されて居つたが、再び本課の爲に活動されます。其他前月豫告の松下淑氏も加入されました。前月より3名を増加した。

觀測日數 24,26の兩日は全體を通じて缺測された。最多數は本日も保積氏の22日で半月以上の者8名である。

特殊觀測 金田氏の全面寫眞は27,28の2日、保積氏の大黒點スケッチ一枚受領した。沓掛氏及び蔡氏は緯度報告更に蔡氏は東西別。亦松下、金田、富田、伊達、岩城、前橋の諸氏は南北別の報告あり。

黒點概況及び相對數 23日北半球7°の東端に出現の大黒點は稀有なもので肉眼に容易に見られ、月末中央を通過したが天候に禍されて西半球の詳細を觀測困難と推定するが之は翌月の問題で渦狀の半暗部を有し見事であつた。全體としては七月西半球に6群程密集し其の1群は双頭式を示し本月第二の極大時となり之等は連續して西渡し11日には最低相對數となり2群小黑點2個となる。更に21日南西半球の1群は數日間環狀性を備へておつた。相對數の最高は月末であつた。

太陽黑點相對數報告 (1942年二月) Sun-Spot Relative Nos., February 1942.

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章 獻 Ss (臺北市)	坂上 務 Su (鹿兒島市)	七高 天文學會 (鹿兒島市)	伊達 英太郎 Dt (兵庫縣)	前橋 榮太郎 E.M. (大阪市)	竹內 潤 Tu (大阪市)	寺崎 明 A.T. (大阪市)	西尾 利夫 No (大阪市)	金田 伊三吉 Kd (石川縣)	大石 辰次 Oi (靜岡縣)	岩城 馨 K.I. (靜岡縣)	沓掛 七二 Kk (長野縣)	富田 弘一郎 Tm (東京市)	高杉 重春 Ti (東京市)	保積 善太郎 Hz (東京市)	山田 勇次 Yy (東京市)	飯高 正義 M.I. (東京市)	松下 淑 T.M. (東京市)
口徑 mm	55	42	135	36	27	32	18	105	55	55	30	102	40	32	80	75	40	58
倍率 x	64	64	71	40	60	50	75	75	64	64	50	75	32	64	64	80	58	64
方法	P	P	P	D	D	D	D	P	DP	D	D	DP	DP	D	D	D	D	D
1	27	R	R		R		C	R	S	M	R	C	S	S	S	S	S	M
2	54	R	45		C		C	R	S	36	36	R	C	R	C	R	C	M
3	43	R	C		C		R	R	S	58	58	C	C	C	C	C	C	M
4	C	R	74		43		M	75	57	C	M	M	73	C	63	C	46	M
5	88	86	93		51		C	75	S	57	63	M	50	49	59	50	C	61
6	C	M	R		C		C	C	76	C	C	93	55	C	68	C	C	M
7	R	M	93		C	46	48	C	S	91	C	C	82	62	70	55	61	71
8	R	M	76		C		45	41	39	51	57	46	47	25	49	C	M	40
9	27	M	39		33		43	M	22	C	45	M	44	26	26	26	M	26
10	R	M	C		M		44	M	S	49	11	C	0	M	23	C	M	M
11	R	M	12		M		44	M	S	22	11	C	11	M	11	22	M	11
12	R	M	41		M		C	M	S	34	M	C	22	22	22	36	23	23
13	R	M	C		M		45	M	S	48	48	C	42	38	47	M	M	37
14	R	M	C		M		43	C	S	49	C	C	53	37	48	37	C	38
15	R	M	C		M	58	42	C	S	R	C	37	23	S	44	S	S	M
16	R	M	44	32	M		M	C	S	C	46	C	M	C	37	C	C	M
17	M	M	41	41	29	43	42	C	26	C	35	32	33	26	40	25	28	28
18	R	M	C	34	M		41	M	S	C	C	C	M	15	36	C	M	M
19	R	M	54	C	M		C	M	S	C	C	M	M	12	34	C	25	M
20	R	M	61	48	M		C	C	S	41	C	M	31	26	49	M	M	28
21	55	M	80	54	33		41	C	34	46	48	60	42	45	58	M	M	27
22	46	C	C	47	C		R	C	42	46	C	56	44	38	33	M	M	25
23	63	C	60	51	C		C	R	53	C	60	M	37	48	60	58	42	53
24	M	C	R	R	R		R	R	S	R	R	S	S	S	S	S	S	M
25	R	39	86	52	45		53	60	58	44	36	C	62	37	57	M	M	51
26	R	R	R	C	R		R	C	S	C	C	C	C	C	R	S	S	M
27	R	81	108	94	49		54	97	75	C	52	108	M	C	C	C	M	M
28	R	79	109	103	63		66	90	84	73	49	C	M	59	80	68	M	97
日數 Days	8	4	17	10	8	3	14	6	11	14	15	7	18	16	22	9	6	15
平均 Mean	50	71	66	56	43	49	47	73	31	49	44	62	42	35	46	42	37	41
最高 Max.	88		109	103					84	91	63	108	82	62	80			97
最低 Min.	27		12						22	22	11		0	12	11			11

報告に対する希望 報告の最上欄の記入事項も是非正確落記を御注意下さい。黒點詳細欄は記入すべき事項は數字と符號に限りませんから観測の状況又は説明を略記して下さい。本月の大黒點の各方面の影響を次回には序でに御報告ありたし。

課員消息 千葉縣の江川義氏は中旬死去せらる同氏の黒點観測は1940年五月より1個年、観測日數197日であつた。観測率54%の成績を得らる。來月より京都市の笠井泰雄氏が参加の豫定です。

★遊星面課報告 PLANETS

課長 伊達英太郎 (E. Date, President)

會長への書信——拜呈、(前略)新進諸家の努力により、昨年度の火星の記録も可なりのもので得られます。目下、整理と原稿を草しつつありますが、何かと家事に追はれ、且、まだもう少し身體のガン張りが利きませんので、遅々として居り、今月中に原稿を完成して御覽に供すべき筈のところ、恐れ入りますが、來月末まで御許し願ひたく存じます。尙、この原稿に附隨しての課員諸氏の火星スケッチの複寫は、數ヶの見取り圖を天界1頁大のものに複寫する方が宜しいでせうか? 印刷上の御都合を御知らせ願ひ上げます。……先日來、大石氏と、太陽観測について何等か新機軸を考案したく相談致し居ります、之れについても御指導を仰ぎたく存じます。小生は、毎日、午前中、時間が多少ありますので、去三月1日から11糎無銀反射赤道儀による太陽寫眞の撮影を開始致し、毎日2枚づつ撮影して居ります。近頃はシーイングも大に改まり、良いものが出來つゝあります。特に昨今の太陽面の賑やかさは、黒點の最盛期を連想させるものあり、毎日楽しみつゝ、撮影を續けて居ります。反射鏡による太陽寫眞は他に餘り例を見ませんので、出来る限り續けたいと思つて居ります。只、残念な事は、國産乾板(プロセス)の餘りにもスペクの多い事で、之れにはホトホト閉口して居ります。(後略)〔三月25日〕

★彗星課 COMETS. 目下、見えてゐる彗星はシヴスマン・ワハマン星のほか、今年新發見のベルナスコーニ星とオテルマ星であるが、ベルナスコーニ星は最近殆んど肉眼に見えるまでに明るくなり、立派なものであつた。しかし、之れももはや地球から遠のくやうになつた……彗星の観測と言へば、主として其の位置を主とするものであるが、しかし、簡単な器械で、光度の變動を観察するのも、亦、價值は高く、興味も深い。この方面にも會員諸氏の奮勵を望む。(6)

告廣: 1942年度の**天文年鑑**(天界247)は、尙少々殘部が本會事務局にあります。希望の方は御遠慮なく御申越し下さい。價40錢。(會員には送料不要)

滋賀縣堅田局區内 東亞天文協會